

私のガバナー補佐日記

2022年7月～2023年6月

自分の為になるかどうか

閉鎖的にならないように

福岡南ロータリークラブ

安部光壺

私のガバナー補佐日記

2022年7月～2023年6月

自分の為になるかどうか
閉鎖的にならないように

福岡南ロータリークラブ
安部光壺

序 《思いつくままに》

私は2022年7月から2023年6月まで、国際ロータリー(R1)第2700地区第4グループのガバナー補佐(Assistant governor)を務めた。

私が担当するのは、福岡ロータリークラブ(以下「RC」という)、福岡南RC、福岡東南RC、福岡東RC、太宰府RC、福岡城南RC、対馬RC、福岡平成RC、博多イブニングRCの10クラブである。

指名を受けた当初は、その役務とか意味さえも分からなかった。正直、研修を3回受けたが分からなかった。しかし、ガバナー公式訪問、クラブ協会等他のクラブの人達と実際に話す中で、徐々にロータリーの意味や役割の問題意識が湧き、ロータリーを再発見することが出来た。これを要約すると、ロータリークラブは

- ①自分の為になる⇒皆の為になるのがロータリーの原点
- ②今の世の中、ロータリーはもっと役に立つんじゃないか

という思いである。これは、最初からそう思ったのではなく、ロータリーのいろいろな活動やロータリアンと接して感じ取ったものである。そういう私の思いの軌跡なるものを日記風にまとめてみた。気ままな書き綴りなので間違っているところがあるかもしれない。耳障りなことを書いているかもしれない。

ガバナー補佐を1年やってみて、この役目を一言でいうと、「社外取締役兼小遣い」である。役柄とは裏腹に、ロータリークラブの役にたっているか分からない。孤独な役柄であった。そんなグチみたいなものも言外にあるので汲み取って欲しい。日付の前に、以下のように区分をつけた。

A	ガバナー公式訪問、クラブ協議会
B	クラブ奉仕デー、ゴールボール大会
C	IM(2700地区のIM関係)
D	福岡平成RCと福岡RCの周年行事
E	対馬ちんぐ衛星RC認証式
F	RI 2700地区 地区大会
G	台中西北RC訪問
H	ガバナー補佐との交流
I	会長幹事会
J	その他

A 2022年6月22日 福岡RCクラブ協議会 西鉄グランドホテル

<ガバナー補佐 デビュー1日目>

これから、1年間福岡市内の10クラブの、クラブ協議会とやらに出席することになったが、その第1日目が、6月22日、福岡RC(西鉄グランドホテル)であった。

記念すべき一日なので、遠目から写真を撮ってもらった。私の様子は手持ち無沙汰の感あり。なにをやっているかわからない。私にはクレムリンだか政府自民党の会議か分からない会議に出席した気分で、勉強不足。しかし、私の不安は一体どこから来ているんだろう。



A 2022年6月23日 福岡南RC ホテルオークラ福岡

<ガバナー補佐 デビュー2日目>

福岡RCの格調高く大人数(125名)のクラブ協議会を経験したあと、今度は、我が福岡南RCのクラブ協議会に出席した。(こう言う会議を今年12月まで合計20回回る。)

福岡南RCは、もう、私の性格を会長幹事始めみんなが知っているのと、無理矢理、私をガバナー補佐に仕立てたと言う負い目!からか、私が、ガバナーや、地区のお偉方に報告しやすい様に、資料をキチンと揃え、この通り、地区事務局に報告して下さいと段取りを揃えてくれた。まあ、このクラブは、私を始め、自分勝手な人が多いけど、やる時はやってくれるでしょう。それまでは、凄く不安ですが。様子を見ます。



A 2022年7月7日 福岡東RCクラブ協議会 ホテル日航福岡

3番目のクラブ協議会は福岡東RC。私の所属する福岡南RCとは例会が同じ木曜日にあるので、中々参加する機会がない。しかし、田村志朗さんや次年度ガバナー吉田知弘弁護士等ロータリークラブに対する意識の高い人が揃っている。



A 2022年7月11日 福岡平成RCクラブ協議会 ソラリア西鉄ホテル

本日は、創立当時から知っている福岡平成RCのガバナー公式訪問である。灘谷和徳パストガバナー、尾園克文さん、大楠正子先生、柴田嘉和さん、吉次平八郎さんと私の知り合いが多い。平成RCというだけあって平成に出来たRCだが、ちょっと平均年齢が高くなっているのではないかと気になった。

A 2022年7月14日 福岡南RCガバナー公式訪問 ホテルオークラ福岡

ロータリー2700地区(福岡地区)ガバナー公式訪問が、7月14日、我が福岡南クラブから始まった。これから半年かけて、小倉で病院を経営している西島英利ガバナーは、福岡県全体の60のクラブを回る事になる。私はガバナー補佐として、その中の福岡市内の10クラブだけお供する事になっている。

ただ、ガバナー補佐の場合、ガバナー公式訪問の前に、各クラブの事前協議会に参加するため、合計20回各クラブを回る事になる。仕事の時間が割かれ、慌てて参加しているだけだが、案外、色んな人と会えて楽しい。



A 2022年7月14日 ガバナー補佐の名刺をつくる

遅ればせながら、私は顔写真入りの名刺を作った。多少若作りしたことなど工夫している。その数300枚。私のことからメッセージ入りである。

ロータリーのキーポイントは、「1905年」である!

ポールハリスは1905年、シカゴで4人でロータリークラブを作った。あの当時のシカゴは今と同じ、差別と、暴力、無法の時代で、弁護士であるポールハリスはこの荒廃した街を何とかしなければいかんと思った。しかし、何をしようか? そうだ! 何をしたいかを毎週集まって考えようとした。まあ何とのんきな間接的な奉仕活動だろう! これがロータリーの起源だ。これが大発展して、120万人も擁する世界規模の団体になった。何がこんなに発展する理由だったかと言うと、直接的な事前活動、奉仕活動ではなく、職業を通しての奉仕活動だったと言うところにあると思う。そんな、控えめで穏健な活動は私に合っている。



A 2022年7月20日、宗像RCクラブ協議会 ロイヤルホテル宗像

青空と海と神々が宿るクラブ、宗像RCにやって来た。福岡市内のクラブと少し違うのは、抜けるような青空と爽やかな風だった。珍しく曇りのうえでの例会だった。ガバナー補佐として例会訪問を4回も回を重ねると段々、私も、要領がわかって来た。色んなロータリーの比較ができる。



A 2022年7月21日、福岡東RCガバナー公式訪問 ホテル日航福岡

本日は福岡東RCへのガバナー公式訪問。ズーム会議も取り入れながら、次年度ガバナー輩出RCとしてやる気十分だった。2022年ズームにて、会員基盤向上委員会に参加。田村志朗DX推進委員長の話を聞く。クラブ活性化の為にDX化がいかに大事かを説いている。本当に頭が下がる。

A 2022年7月25日、福岡平成RCガバナー公式訪問 ソラリア西鉄ホテル

ガバナー公式訪問。伊藤会長は税理士なので、一団となって頑張ろうという気力が伝わってくる。インボイス制度の解説に耳を傾ける。見た目よりすごく若い。

A 2022年7月26日、太宰府RCクラブ協議会 大丸別荘、 博多イブニングRCクラブ協議会 ホテル日航福岡

昼は、大丸別荘で太宰府RC、夜は日航ホテルで博多イブニングRCのクラブ協議会に出席した。とうとう、各ロータリークラブ約1時間~2時間のダブルヘッダー!! もうクタクタだ! 兎に角、何かガバナー補佐として喋らなければならない。段々、慣れてきて、賢くなってきたせいか、ロータリーの四つのテスト、



- | | |
|-------------|---------------|
| ①真実かどうか | ②みんなに公平か |
| ③好意と友情を高めるか | ④みんなの為になるかどうか |

と言う有名な四つの行動指針のほかに、ロータリアンはもう一つ隠れた真実の行動規範がある。それは何か?それは「自分のためになるかどうか」だと言って帰ってきた。

ロータリークラブは1905年、シカゴで、ポールハリスという弁護士が、4人で作ったのが始まりという初歩的な事も知らないロータリアンがいたので、ポールハリスというのは、「ポールマッカートニーとジョージハリスン」を足して2で割れば覚えられると言ってやった。突然ビートルズが出てきて、コレも聞いている人たちはビックリしていた。



なんでもそうだが、自分の楽しみがみんなの楽しみにならないとやっていけない、他人の為に自分を犠牲にしても嫌だし、自分だけ良ければいいと言うのも詰まらぬと言って帰ってきた。変なガバナー補佐だな!と思ったに違いない。

A 2022年7月27日、福岡RCガバナー公式訪問 西鉄グランドホテル

7月27日、本日は、福岡、九州で、最初に誕生した福岡RCに、ガバナー公式訪問に随伴した。場所は、西鉄グランドホテル。

今日は、私が主役ではなくて、ガバナーが主役なので、黙って食べることにだけに専念した。それにしても、福岡RCは、会員が125人いて、みんな一流の会社の社長や支店長で層が厚い。このクラブは、毎年福岡の高校生に3年間



の返済不要の奨学金を与えているのだから凄い。125人もいて、平均年齢が下がらないのは若い支店長さんが頻りに交代するからだ。私たちの相手をしてくれた「南陽」の社長の武内さんは、副会長ではあるが、クラブ情報を丁寧に教えてくれた。幹事はお菓子「鈴懸」の中岡さんは、ハッキリ言って長身のいい男だった。彼もロータリー活動に必要なロータリーの基本知識や、当クラブの活動内容は詳しく理解していた。

伝統ある福岡RCは、伝統だけじゃなく、福岡地区のリーダーロータリークラブにふさわしい活動をしていると感じた。些か、誉めすぎの感あり。

A 2022年8月3日、宗像RCガバナー公式訪問 ロイヤルホテル宗像

宗像RCは、昭和62年設立で今の会員数は、42名。(設立時は25名)平均年齢は、59.2歳。この平均年齢が、高いか低いかは、「平成」にできた他のロータリークラブの平均年齢が、64歳であるのに

比べれば如何にこのクラブが会員リクルートに熱心で解放的であるかがわかるであろう。

因みに我がクラブは、30年前は、約130名、しかし今は、90名、平均年齢は65.3歳。如何にクラブが楽しいだけで、何も後継者育成に関心がなかったならどう言うことになるかがわかる。(これは今の日本を象徴している。自分達さえ楽しければいいと言う発想なら、いつかは、自分達を支える者がいなくなる)

宗像RCは、小さくて若いクラブながら、宗像大社を始め地域に深く関与して、公共イメージの活用にスキルを発揮している。今やlegendとなった安増パストガバナー他、コロナの診療に多忙を極めながらもロータリーを大切にしている石野先生、クラブ運営のDX化のキーパーソン中村さん、真っ直ぐに活躍する2枚目の牛太という名の幹事など、私の好みの人物が多数いる。



A 2022年8月5日 福岡東南RCクラブ協議会(グランドハイアットホテル福岡)

私の担当の8番目のロータリークラブ訪問は、福岡東南RC。1970年(昭和45)に設立され52年の歴史を持つクラブだった。会員数は77名。大きなクラブと言える。九州電力その他の関連会社などのビッグネームが、数を揃えている。

3年前の2020年1月の創立50周年記念式典には、櫻井よこを呼んで、記念公演が行われた。相変わらず、彼女の強い自信とロータリアンに誘惑的な女性の口説きで中高年のロータリアンを魅了したことを覚えている。

しかし、それから3年が過ぎただけなのに本日8月5日、クラブ協議会に出席して会員が大きく若返りしたのに驚いた。きっと、著名人や熟練の経済人だけでは、これからの変革は担えないと判断したからだろうと感じた。社会事業や公共奉仕に力を入れ、

- ①学校に通えない子ども達が通うalternative schoolにタブレット端末を寄付したり
- ②ウクライナ出身の歌手のチャリティーコンサートをしたり
- ③ゴールボール大会への参加
- ④福岡マラソンの応援
- ⑤福岡トライアスロンのボランティア活動をしている

このクラブのモットーが、「ずっと先までお役に立ちたい!」らしい。私のモットーと同じだ。私も、依頼者や、社会、そして家内(?)のお役に立ちたいと思っている。次の時代を担う若者を育てたり、地域に関連する奉仕事業をしないことには自分の今後もヤバイと思ったのだろう。社会、国家のため



と言いながら、それは自分のためになるんだと言うことをちゃんと分かっているクラブと思った。

A 2022年8月17日 福岡城南RCクラブ協議会 ホテルニューオータニ博多

この日私は、クラブ協議会に参加するためだったが、このクラブでは卓話までさせられた。自分の言いたいことの五分の一も言えず終了。別に為になる話をしようと思ったわけじゃないけど、消化不良で終わり、自分にムカつく一日だった。(でも、聴衆は凄く新鮮だったと言ってくれた。私は、感想を聞くのも辛かったが。)



夜は畏友、立花高校の斎藤校長先生が、西中洲河童へ、美人を連れてきてくれたおかげで気が紛れた。子どもか孫の歳かもしれないが、女に歳はない!私は、遠いところを見ている。でも、誰も気づかない。それで、いいのだ。

H 2022年8月26日 ガバナー補佐との交流 春吉の居酒屋

ロータリークラブの中間管理職(ガバナー補佐)6名が北九州、浮羽、福岡から集まった。場所は、福岡市春吉のとある居酒屋。糸島RCの田中さんが最近評判の高い「田中六五」のオーナーなので、「田中六五」を持ってきてもらった。ロータリーは悲喜交々。それがわかるのは我々だけ!と、年甲斐もなく愚痴りつつ酒が進んだ。



I 2022年9月16日 会長幹事会 ホテルオークラ福岡 ゴールボール大会の告知

第1回目の第4グループの会長幹事会は、福岡南RC主催で行われた。テーマは、9月~11月に行なわれるゴールボール大会の打ち合わせだった。立花高校の斎藤真人先生が次のように言われた。

ゴールボールを体験してみませんか?昨年度から私学協会福岡地区支部の行事として取り組みがスタートした『ゴールボール体験競技会』2年目の今年度は、一般市民の方々もお気軽に参加して頂けるようにしました。

まずは体験講習会を9月25日(日)と10月8日(土)の2回、立花高校体育館で開催します。特に今週日曜日の1回目の講習には、東京パラリンピック銅メダリストの浦田理恵選手と工藤力也コー

チが実際にコーチに来て頂けます。アイシェードを着けて真っ暗闇の中でボールの鈴の音を頼りに
繰り広げられる世界で新たに見えて来る世界を、是非皆様にも味わって頂きたいです。

ご家族や職場の仲間等々お声をかけあって、お気軽にご参加ください。

B 2022年9月25日 立花高校 ゴールボール体験学習

ゴールボール体験学習 in 立花高校体育館

私は、障害者とか、スポーツと言うのは、非常に苦手な分野で弱腰だったが、ロータリーのガバナー補佐という立場上、参加はマストなので、ゴールボールを体験学習した。弱腰というものの、生来、好奇心とか見た事もない事が弱気を凌駕する性格なので、ハマったらどうしようという不安もあった。



体育館について、まず最初に驚いたのは、目が見えないはずの浦田選手(女性)、工藤コーチ(男性)が、全然、目が見えないようには見えなかった事だ。背筋もピンと伸びているし、ニコニコしているし、足がふらついているなんてない。フラフラしているのは私である。時々、そばにいる人が浦田選手に手を出している人がいたり、浦田選手自体、そばにいる人の肩に手を置いたりしている。私も、彼女と立ち話をしていると彼女が私の肩に手を置いてくれて、とたんに私は優しい気分になれた。

ゴールボールは、アイシェードと言う目を全く見えなくするゴーグルをつけて3人チームで、相手から投げってくるボールを捕まえるゲームだ。ボールにつけられた鈴の音だけが頼りだ。だから会場はシーンとして拍手もない。選手たちの、「今から打つよ!」とか、「右から来るよ!」と掛け声だけが聞こえる。つまり、目の見えない人にとっては、声を掛け合えないと交流ができない。つまり目の見えない人たちにとっては沈黙(謙虚)はダメ!積極的に生きるしか道がない。もっと言えば、自分が、disableだと思ふ暇がない。不自由だと思ふ暇がないのだ。何かこんな、「生きる仕方」を間近に見せつけられて、言葉にならなかった。何か彼らのお役に立ちたいと思ったが、まずは、彼らと私達が、何の区別もないと言うところから付き合う必要があるのじゃないかと感じた。ジワッと寄せる不思議な感覚が、私を襲った。

D 2022年9月26日 福岡平成RC創立30周年記念式典 ホテル日航福岡

今日は夕方から、平成RCの創立記念30周年式典に出席した。

本当は、私は、人前で喋る事も飲むことも嫌いでワガママだ。それでも何か、祝辞を述べた。とこ

ろが今日は、私に続く長い講演のおかげで、元のわがままな自分に戻った。自然と人の話を聞かなくなり、目の前にある山形のお酒をチビチビ飲んだ。

知り合いの人が何人もいたが、創立記念日のノリではなく親しい人に語りかけるように話が弾んだ。地味な創立記念日だったが、気持ちは、すっかり心開いた会だった。



J 2022年10月1日 13時10分～16時30分 地区危機管理委員会

TKP博多駅前シティセンターで開かれた危機管理研修会に出席した。ロータリアンの不祥事などがあった為だと思われるが、奨学生を預かるRCとしてはそういう危機管理も必要だろう。

B 2022年10月8日 立花高校でのゴールボール体験学習

ガバナー補佐と言う立場上、再び、立花高校でのゴールボール体験学習に参加した。

障害者のスポーツと言うのは、結構、心も体も熱くなるんです。大学生、高校生、一般参加者、ロータリアンなどが混合で集まった。最後に記念写真を撮ろうとすると、高校生たちは、自然と肩を組んだ。私に、RCのズームで、3回RLIと言う長時間の研修を指導した、小倉中央RCの「狩野さん」は、小倉から、4人のお子さんを連れて参加した。



陰ながら、応援すると言うか、支えたいと言う気持ちが現れてグッと来た。有難う!

J 2022年10月19日 ロータリーの友の俳句に投稿

私は無邪気にもふざけた俳句を時々作っているが、今をときめく、《夏井いつき》先生の講評を聞くと、ハット目が覚め、全く自分の無学さと表現力の平凡さにめげてしまう。

ロータリークラブには「ロータリーの友」という立派な月刊誌があって、夏井先生が選んだロータリー会員の選句が並んでいる。一度でいいから、夏井先生に褒められたい!しかし、今回ロータリーの友に載った福岡城南RCの吉武草径さんの句はうますぎた。

《夜濯(よすすぎ)の耳はラジオに預けたる》

この句は、奥深く、しんと静まり返った部屋に、何か、洗濯物の濯ぐ音がして、その洗濯物を洗っている人は、心を平穏にして、黙々とラジオに耳を傾けているという日常的だがその一瞬を掴み取るという、とても難しい情景が描かれている。夏井先生によれば、この「夜濯(よすすぎ)」と言う言葉は、知る人ぞ知る夏の季語らしい。炎天下の洗濯を避け、また、1日の仕事を終え、夜涼しくなってから、汗まみれの衣類などを洗う。洗濯機の音を聞きつつ、洗濯物を干しつつ、耳は傍に置いたラジオに預けているのだろう。心は、ラジオの言葉や音楽に遊ぶ、憩いのひと時と夏井先生は、コメントしている。

してみるとこんな季語を知っている作り手は相当の熟練した人ではないかと思う。

そこで、私は、ガバナー補佐の特権を駆使して、こんな秀句を作れる御仁は一体何者なのだと、福岡城南RCの幹事に尋ねた。すると彼は、待ってましたと言わんばかりに、「この句を作った吉武さんは、御年88歳の長老で、3年前のガバナー補佐で、このロータリー俳壇には、毎月投稿され、入賞回数も半端ない。」いう事だった。

うーん、参りました!ゴルフも俳句も、遊び半分じゃ、ホンモノになれん。

しかし、夏井先生には、褒められたい!!

A 2022年10月26日 対馬RC 対馬グランドホテル

対馬RCは、ガバナー公式訪問とクラブ協議会をいっぺんにやる為に、10月26日と27日の一泊二日の対馬旅行となった。

対馬RCの会員数は、19名。私の福岡南RCの約90名に比べて比較にならないくらい小さい。こんなクラブでどんな活動が出来るんだろうかと言う興味を持って出かけた。

対馬は、南北に細長く伸びた(全長80キロ)島で、壱岐が、真四角の島(東西が17キロ、南北が15キロ)であるのと対照的である。(尚、対馬の島全体の海岸線の長さは全長1000キロである。)人口は、共に、25000人から28000人くらいで同程度である。

対馬は、ロータリーは一つしかなく、従って、北側の島の人が南側の島にある例会ホテルに来るためには、車で2時間かかる。だから、北の島の人には殆ど、例会に参加できない。

壱岐の島は、東西南北の長さが短し、ロータリーが二つもある。一つは会員数は50名、もう一つは30名くらいらしい。一つのクラブに出席できなければ他の曜日に開かれているロータリーに出席すれば良いので、出席補填(メイキャップ)ができる。

でも、対馬RCの出席率は一つしかないのも、メイキャップが困難と言うハンディがあるものの、78%の高率である。

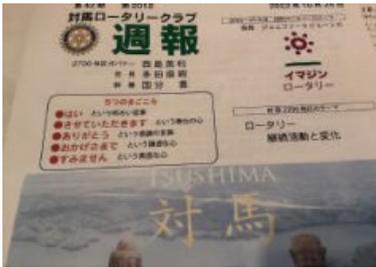


どうしてこんな違いができたのか?どうして、対馬RCは人数が少ないのか?コレで、ロータリー活動はできるのかと感じていた。平均年齢は、66歳とちょっと高い。高校生の奉仕活動を支援するインターアクト活動はないし、20代の若者を指導しようと言う目的のローターアクトもない。言いたい事はいっぱいあったが、いかんせんマンパワーがないことには、無理な注文もできない。年会費も、極めて少ない。

しかし、目を引いたのは、この島の人たちの、海に対する環境汚染への憤りだった。

この美しい玄界灘を、韓国中国の、ゴミが常に漂っている。海は年々温度が上昇し、海藻、魚の生態系が、破壊されている。夜には美しい神秘的な漁り火も屋になれば、ごみ収集の活動の場になっている。毎日が環境破壊の課題と戦っている。地区本部からは、ロータリーはSDGsをロータリー活動の最重要課題と言っているが、対馬RCの会員からは一体、地区本部の要求が具体的に何をしようとしているのか全く見えないと声が上がっていた。

対馬RCの会員が、福岡の大会や、研修会その他の行事に出るためには交通費だけで3万円かかる。宿泊もすれば5万円にもなる。コレで、どうして福岡の行事に積極参加ができるだろうかと言っていた。地区では、会員を拡大しろとか、様々な研修をしろとか言っているが、まず、ロータリアンは、この土地の生活や環境を守ることが急務なんだ。ロータリーとは、そんな課題を解決しようと思ってできた団体じゃないのか?



こんな問いを、この19名の人たちとの質疑応答の中で感じてしまった。

福岡では、スローガンを掲げて、奉仕活動をやって行こうと言う掛け声は、毎年、聞いているが、目の前にある本当の危機には全く鈍感である。19名だが、凄く活発である。私より年上の75歳くらいのロータリアンが、若い人もロータリーに入会してもらいたいが、会費が高い、それで、福岡では衛星クラブという新しい組織があると聞いた。衛星クラブが、そんな時間も金もない若い人の受け皿になっていると聞いたが、そのシステムを教えてほしいと言った時は、些かジーンと来た。我がクラブの衛星クラブの会長を紹介すると約束した。

そもそも、ロータリーは、シカゴでポールハリスが4人で始めたものだ。インターアクトがないといけなとかローターアクトがないといけなとか言ってる場合じゃない。まず、社会に役立つためにロータリーはあるはずだと言う、至極真っ当な事を教えてくれる訪問になった。

J 2022年10月30日 叙勲パーティー ホテル日航福岡

福岡東RC大和竹史会長の叙勲パーティーに招かれる。ガバナー補佐の役目から、福岡東RC会長の大和竹史さんの秋の叙勲のパーティーに招待を受けた。大和会長は私がガバナー補佐になってからの知り合いだが、その生き方には敬服すべきものがあると感じ、喜んで参加した。ガバナー補佐になるとおまけつきでこんな立派な方と知り合いになれるので、大変うれしい職務だと思う。



B 2022年11月6日 ゴールボール 城東高校

ガバナー補佐と言う役目柄、本日は、福岡工業大学附属城東高校で行われた、ゴールボール予選会に参加した。

昨年から福岡市内の高校生で始まったゴールボール大会も今年は、大学生、中学生、社会人もと裾野を広げ、参加者が拡大している。ロータリークラブは参加もするがその企画運営のお手伝いをしている。どの高校もゴールボール部などと言うクラブ活動は行っておらず、このゴールボール大会は、担任の先生の声かけで、希望者が広まっているようだ。しかし、にわか作りとは言え、学生達はお揃いのユニホームを着てやる気満々だし、何かにつけて楽しくやろうとする術を知っている。



私は、今日で3度目の参加だが、障がい者スポーツで、人の優しさと積極的に生きることを肌で感じた。障がい者スポーツは、常に誰かの手助けを必要とする。しかし、元気な人は誰の手も借りないで生きていけると思っている。しかし、しかし、そう思っている人は、一度アイシェード(eyeマスク)をつけてみるといい。絶対真真っ暗闇の世界がそこにある。その時、自分は、1人で生きているとは言っても、常に誰かの手を借りて生きている事に気付かされる。つまり、1人で生きていける人間なんて1人もいない事に気付かされる。障がい者スポーツは、そう言う人生の本質を教えてくれる。人生は、誠実、努力、正しいものが報いられるとか、わかりやすい目標はあるが、健常者じゃないからこそ見えて来る正しい生き方というものもあるんだなと感じる。

J 2022年11月7日 ロータリー地区国際奉仕委員会 八仙閣

11月7日、博多駅近くの八仙閣で、余り馴染みのないロータリー地区国際奉仕委員会に引っ張り出された。協議内容や、食事の内容は、さておき、とても面白い人達ばかりでびっくりした。行橋から来た年齢不詳の小太郎さん(黒ぶちメガネ)、壱岐から来た頑固オヤジ風の白川委員長(私と同年)がその代表である。2人とも、見てくれがいいわけではないが、魅力があった。二人とも初対面なのに、私の、ロータリーへの苛立ちを理解した。私は、気持ちが飛んで行って、軽くなった。



もう一人、真ん中でニコニコしている御仁は、パストガバナーの安増さん(宗像)。

ロータリーを最も正しく理解している人である。掛け値なく尊敬しています。(嫌味ではありません。)こういう楽しいこともありますよ。

A 2022年11月9日 福岡城南RCガバナー公式訪問 ホテルニューオータニ博多

これで最後のガバナー公式訪問。とにかくやりました。最後の福岡城南RCは、昔は対外的な行事はあまりやらなかったと記憶するが、今はどんどん意識変えをして閉鎖的でない活動をしているように見える。篠原幹事の楽しい活躍をみていると気分がいい。北原会長も好きになった!



J 2022年11月10日 自宅で

ガバナー公式訪問を終えて

ロータリークラブのガバナー補佐としてのガバナー公式訪問の長い旅は、今日でとうとう終わった。

福岡RCと我が福岡南RC訪問が今年の6月末から始まり、11月の本日の福岡城南RC訪問まで、5ヶ月間、ガバナーの随行、クラブ協議会と10クラブを2往復=20回訪問した。(宗像も太宰府も対馬も行きました!)



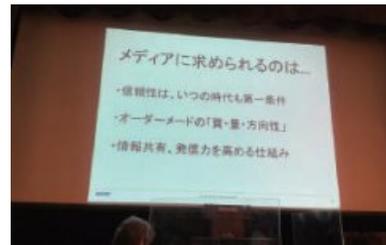
ロータリーと言う奉仕活動がどれだけ有意義なものであるかをお昼時、2時間くらい会員に話をしたり話を聞いたりする活動だが、超個人主義の私には中々似つかわしくない活動だと思っている。

ところが、私は、一方で、知らない事を知りたいと言う傾向とスノッパな性格があり、他所のクラブに覗き見る事は、結構楽しい。どうしてこんなにみんなボランティア活動を熱心にするんだろうかとか、マジにそう思っているのかを偵察する旅である。すると、マジに真剣に、他者や、ハンディのある人に、出来ることをしたいと言う超我の人がいるので、感動する。ゴールボール大会で、熱心に、サポートしている若者を見るとびっくりすると同時に感動する。でも自分でやれと言われれば出来ない。だから、できる範囲でやれば良いんだと思う。《所詮、ロータリー活動とは、仕事の片手間にやるもんだ。》色々なクラブを訪問するとつくづくそう思う。だから、「ロータリーは仕事の片手間にやるもんだ。」と言うと、思いがけず拍手が沸き起こる。

そんな訳で、私もロータリーの役に立っているのかなと思う。まだ、私には、ゴールボール大会決勝と、10クラブの全体のシンポジウム開催(IM)という仕事が控えている。適当に乗り越えると言いながら、結構、マジメに取り組んでいるようでそれが怖い。(ロータリークラブは本当は愉快な人に満ちている。)

J 2022年11月16日 福岡RC 例会訪問 西鉄グランドホテル

今回はIMの勧誘とお知らせに行こうと思い、事務所から一番近い福岡RCにおじゃましました。すると、日経新聞西部支社代表の浅見昭彦さんが**Selected News Avoidance (選択的ニュースの回避)《マスメディアの脅威と病理》**というテーマで卓話をしたのに遭遇した。彼の言わんとするのは次のようなことだ。



人は悲惨なニュース、自分には関係ないニュース、抗争的なニュースが来る日も来る日も続くと、ニュースを見たくなくなり、都合のいいニュースばかり見るようになる。すると、事実をありのままに報道しようとするマスコミの大義が揺らぎ、人は、自分の好むニュースばかりを見るか何も見なくなる傾向となり、ひいては、マスメディアを信用しなくなる。(コレを多分Selected News Avoidanceと言う)

民主主義における市民の武器であった筈の報道の自由が、色褪せて、一定の傾向の好みに合わせたプロパガンダ機関のように映ってしまう。当然、マスコミを人々は信用しなくなる。例えば、トランプのマスメディア使用などを見ていると、マスメディアが、一人のPower personの道具になる可能性を秘めている。ここに、マスメディアの脅威と病理がある。報道の自由は、表現の自由、精神的自由の中の重要な基本的人権であるとか、民主主義を支えるものであるとか言われているが、

今の価値観が多様に分かれ、人それぞれが他者を受け入れない状況になってくると、マスメディア自体もかえって、自由や民主主義を擁護するものでは無くなって、一つの危険要因となる可能性がある。

これは、マスメディアに対する新しい(ユニークな)視点であり、一言で言えばゾツとした。

J 2022年11月17日 薬院のそば屋でテーブル会

72歳の誕生日

とうとう私は真年になった。

この日は、久しぶりにロータリーのテーブル会でいっばい飲む機会ができた。

いつもは鼻持ちならない銀行の役員もお酒と美味しい食事が提供されれば、ダジャレのおじさんの顔になる。おまけに今日は私の72回目の誕生日だったので、冷やかしながらも盛り上がった。さして話すテーマはないけど思い思い考えている事が積み重なって、得難い人生の教訓が散りばめられた。

これですよ!皆んな話し相手を求めている。



I 2022年11月25日 会長幹事会 新三浦

久しぶりに高くくて美味しい博多の水炊きを食べた。石城町にある新三浦は、約110年続いた老舗らしい。この日は、福岡RCの西高辻会長、中岡幹事の世話でこの新三浦で、福岡地区の10ロータリークラブの会長幹事会となった。

皆さん、一年の任期の半分が終わって、各クラブが軌道に乗ったようで、味合う料理を余裕を持って楽しんだ。

ロータリーに対するグチは全くなし。そんなことを言う暇もなく楽しんだ。西高辻さんの太宰府天満宮は、1000年以上続いた天満宮だし、中岡さんの鈴懸というお菓子も100年以上続いたお菓子屋さんである。福岡RCは今年90周年。その二人は先週、100年を迎えた大阪RCの創立記念日に招待されたようだ。長く続く企業やロータリーがあるもんだと思う。

我が福岡南クラブは70年だ。

私は、とうとうこの日は、清酒萬代の名前に惹かれて一杯飲んでしまった。少しはゆっくりしたいと思って。



B 2022年11月26日 ゴールボール決勝大会 九州産業大学

11月26日、九州産業大学での、ゴールボール決勝大会が、終わった。私は、9月25日の立花高校でのゴールボール体験学習を経て、4回目の決勝大会に我ながらよく付き合った。このゴールボール大会は、オリンピックの障がい者スポーツ競技として取り入れられている。誰でもできるスポーツだが、真剣にやりだすと、奥が深い。また、真剣にやらないと、実に下らないスポーツと見える恐れがある。



しかし、分からない人は、一度アイシェードをつけてみると良い。アイシェードというアイマスクで自分の両目を覆うといわゆる「世の中が真っ暗になる。」真っ暗になると人は何と言うかということ、「助けて!」と言うに決まっている。そこで、我々はふと考える。「世の中が真っ暗になる」状態というのは健全者でも少なからずあるが、そんな時は、我慢するというより、誰かに助けを求めるものだ。

つまり、誰かの助けがないと生きていけないことは皆んな本能的には分かっているのに、人は、「自分一人で誰の助けも借りずに生きている」、「人に迷惑をかけていない」と言っているが、それは、無人島に住んでいるか、ある瞬間の話であって、本当は、みんな一人では生きていけない。

このゴールボールは、この当たり前のことを教えてくれる。高校生たちは、その事を知ってか知らずか、楽しく、しかも真剣に、相手をやっつける為に、アイシェードをつけて、ゴールに投げ込み、防御側は、両手両足を広げ、全身を真っ直ぐに伸ばしてゴールにボールが入るのを阻止している。

私は、この競技を見て高校生たちは、「目が見えないから何だ!」「そんなこと言っている場合じゃない!」「目の前にある災難から守るためには、体を声を掛け合って這ってでも阻止する以外にないじゃないか!」とか、「真剣にやらないと生きていけない」と体を張って言っているような気がした。

J 2022年11月28日 リーガロイヤルホテル小倉で研修会

私の手帳は、小倉に行って研修会に出席しとあるが、どういう会合だったか忘れた。2年後の野崎ガバナーエレクトも参加していた。だいふ慣れたのとくたびれたのが同居している。



J 2022年12月15日 福岡南RC ホテルオークラ福岡 クリスマス家族懇親会

どう見ても、体が、上と下で離れている!左に顔はあるが、それが、腰から切れて下がない。でも、右には、上がなくて靴を履いた足がある。こんなマジックがあるのだろうか?イリュージョンマジックと言うらしい。変な帽子を被らせられているのは我がロータリークラブの村上会長。還暦の時に作った赤いブレザーをクリスマスパーティのために着てきた。



J 2022年12月27日 松下記念館

中洲のママと赤坂の喫茶店(松下記念館)で会う

律子さんは、長らく中洲のスナック(プチタマキ)のママをしていたが、数ヶ月前、突然、パリに住み始め、その便りをFacebookに載せた。

昔、彼女の店は、中洲川沿いにあり、どういうわけか私の知り合いはその店が好みの人が多かった。私は、競争率の高い店(女)は、嫌いだから、距離を置いた。でも付き合い上、何回かは行った事があるその律子ママが急に数ヶ月前、パリに住むことになって、頻繁にパリの様子をFacebookにアップした。

ルーブル美術館、シテ島の最高裁判所、オペラガルニエ、マルシェ、リュクサンブール公園、それはそれは、楽しいエッセイだった。そして、パリファンの私としては、今のパリを知る絶好の機会だった。私も、彼女に、レミゼ、スタンダール、モンテクリスト伯などの蘊蓄を傾けた。

私は、彼女が、こんなに素敵な文章が書けるのかと驚いた。パリが彼女を文学少女にしたのだと思う。その彼女が、日本に一時帰国し、私の事務所の近くの喫茶店にいるから来ないかと連絡があった。まさに何十年ぶりの再会だった。相変わらずお洒落な着物姿だったので、一枚写真を撮らせてもらった。肖像権は放棄することだったので、紹介することにした。



C 2023年1月13日 私の事務所

3月4日開催のIM(インターシティミーティング)の打ち合わせ

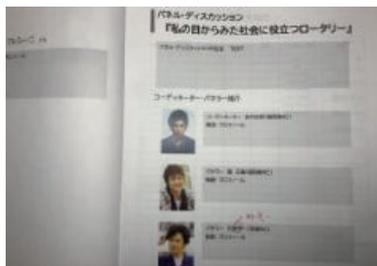
今週は年末からお正月にかけてコロナに罹患したので、その後のコロナの恐怖が付きまとう不

安な1週間だった。

しかし、「キムタク」(福岡東RC)と我がロータリークラブの八島さんがIMと言うロータリーの大会の打ち合わせの為に私の事務所にやって来てくれた。

今年の2700地区第4グループ(福岡地区)のIMは、3月4日に電気ビル共創館未来ホールで行われるが、そのパネリストに、キムタク、香取慎吾、草薙剛、稲垣吾郎などがパネリストとして参加する?!

やはり、スーパースターは違う!キムタクと喋っていて元気が出た。私も、控えめにしていた声がつい大きくなった。私は元気回復した!コレだったら生きていけるだろう。(尚、登場人物には深く詮索しないで下さい!)



C 2023年 1月14日 第1グループIM

チョコレートのお土産 田川から。

福岡県田川市、行橋市、豊前市には6つのロータリークラブがある。そこでIMと言う地域の大会があると言うので、ガバナー補佐として、招待を受けていたが、私は、大晦日からのコロナで、当日1月14日は、頭がおかしくなり、スケジュールが全て飛んでいて、結局はすっぱかしてしまった。



ところが、その中のクラブの会員さんが、この大会のお土産にこんなチョコレートがありますとFacebookに載せたので、どうしても欲しくなって事務局に送って下さい!とおねだりした。

すると、優しいかな!すぐに事務局が、大会パンフレットと共に、チョコレートを送ってくれた。このチョコレートをよく見ると、「苅田RC」、「行橋RC」、「行橋みやこRC」、「豊前西RC」、「豊前RC」、「田川RC」のパナー(タスキ)を形取った6つの板チョコが入っていた。余りにお茶目なプレゼントに感動した!決して都会的センスに満ちた地域とは思えないが、このセンスは、抜群だ!

ついでに言うところの大会の卓話は、「ローカルな平成筑豊鉄道の未来と展望」だった。今の時代に、地域から頑張る、小さいけど頑張ると言う、ロータリーと同じ目標のある卓話の様で聞きたかった。

C 2023年1月21日 第2グループIM 小倉

小倉で開催されるロータリーの集まりに参加した。福岡2700地区には7つの地区と言うかグループがあるが、ガバナー補佐と言う役目上、第2グループと言われる北九州地区IMへ行ってきた。テーマは、「ロータリー活動は親睦中心か、社会活動もやらんといかんのじゃないか」と言う議論だった。加えて、今、ロータリーに入会する人が激減して、収入や維持管理をどうしていくかと言うテーマだった。



そんな時期に私は、ガバナー補佐にさせられたのである。私にそんなことに答えられる能力はない。個人的には、ロータリアンの意識の低さにガックリきた。今のロータリーの現状は、巨大な象の体なのに、それを支えている足は、子鹿のバンビのような足になっていると言うことだ。今が楽しければそれでいいじゃないかと言う発想では老人クラブ、介護施設になってしまう。今の日本と同じ。よかったのは、私と同じ危機感を抱いている真っ当な意見がチラホラ聞いたのが収穫だった。

C 2023年2月4日 第6グループIM ホテルマリタール創世久留米

ベンチャーに取り組む

本日は、久留米で、IMがあると言うので役目から、参加した。講演が二つあり、一つは、地元浮羽で、高校ラグビー、地域ラグビーの活性化に取り組む2人の人の講演で、もう一人は、モバイル通信のエックスモバイルを設立した人の講演だった。3人とも恐れを知らぬ30代だった。自分たちで世界は変わるしやれる、失敗は沢山したけど怖くないと言う、一途と言うか自信に溢れていた。



私は、彼らについていきたい気持ちで一杯で、合計3時間の講演を全く睡魔に襲われる事なく聞いていた。若い人って、凄いと思った。でもどこまでその思いが大化けするやら分からない。一方で、聴衆は平均年齢65歳!この光景は異様だった(普通は、歳をとっている人が講演し、若い人が聞くというのが普通なのに今日は逆だった。)若い人ばかり



りで社会は進歩するわけじゃないし、経験豊富な年寄りばかりでも、進歩はない。

ベンチャーという言葉を考える良い機会になったと思う。さて、私の出番はあるのかなあと言う思いで福岡に帰ることにした。

J 2023年2月5日 自宅で感想

オリンピックとロータリーを比較する

オリンピックは、1896年に第1回がアテネで開かれた。ロータリーはそれから10年遅れて1905年、シカゴで産声を上げた。オリンピックは、スポーツを通じて世界の交流と平和を目指した。ロータリーは職業を通じて、社会奉仕、国際奉仕を目指した。

しかし、令和になってから、新聞を読むと毎日の様に、オリンピックに関する記事が出ている。全てネガティブな記事だ。今日は、とうとう大会組織委員が、テスト大会をめぐる談合で逮捕されたというニュースが目に入った。オリンピックは不幸なことに、政治と利権にまみれた商業ベースの温床になったと言っても過言でない。

一方で、ロータリーは、シカゴで産声を上げた時から、少しずつ各国に広がり、120万人を擁する団体となった。分裂や政治との関わりもなく、職業を通じて社会に奉仕するというわかりやすい手法だからそういう理念を持つ人であれば誰でも入会できる。静かな広がり、信用を得てここまできた。

しかし、そのロータリーもうち続く災害や地震、疫病、戦争、そして経済の低迷の中で最近、活躍する場所を見失おうとしている。

しかし、考えて欲しい、1905年、ロータリーが生まれた時のシカゴは、ギャングあり、貧困、差別ありの無法地帯だった。そんな中でなんとかしようという気持ちから、ロータリーは生まれた。そんな状況は、今の日本や世界と同じじゃないか!「欲しけりゃ奪う。」「憎けりゃ殺す。」現代は、かつてないほどの理不尽さが横行している。1905年当時と今は、全く変わらない。

コロナで、人間だけじゃなく、「社会の免疫力」が落ちている。そんな時こそ、行政や政治や企業ではなく、ロータリーの出番ではないだろうか?

J 2023年2月11日 写真撮影

イメージチェンジ。写真撮影に挑戦

この一カ月間、ロータリーのIMと言う地区大会の実施に翻弄されているが、大会小冊子を編集する担当者から、私の写真が欲しいと言われた。

但し、これまでの写真じゃ古ぼけているのでインパクトのある写真を送ってくださいと言われた。

それで、知り合いの写真家の清水貴子さんに声をかけた。ヘアメイクも必要と言うことで、ヘアメイクのプロのユキさんにも来てもらった。お陰で、2時間かけて、独創的な(!)写真が出来上がった。

そして、最後に記念写真を撮ろうと言うことになって、こう言う写真が出来上がった。なんと言うか、ニタニタしたイメージが払拭できないが、兎に角チャレンジだと思ってやって見た。貴子さんの写真は、もっばら、女性が対象者のようだが、私の様な、中高年男性も撮ってみたいと意欲的なので、自分のイメージを変えたいと言う人には、ご紹介します。



C 2023年2月8日 宗像RC ロイヤルホテル宗像

第4グループIMの説明と動員の為に、宗像RCへ再び訪れた。このRCは、何か私と気が合う。私の軽いところを分かってくれているようで、私もベラベラしゃべってしまう。こういう関係がRCとしてはいいのではないだろうか。



C 2023年2月14日 太宰府RC 大丸別荘

第4グループIMの説明と動員のお願いに来たが、大変印象深い卓話に遭遇した。

《生きる証》

相変わらず、上手く行ったり行かなかったりで、毎日を暮らしているけど、どうして、毎日生き続けようと言う気になるのか、不思議である。そんな時、太宰府のロータリークラブに行った時、「生きる証」をドキュメンタリーにして制作する仕事をしている人(元NHK)の話を聞いた。



彼曰く、皆んな、「生きる(生きた)証」を求めて生きているんだそうだ。ものを書いたり、写真を撮ったりして、Facebookに載せたりして自分のやったこと感じた事を残そうとしている。これは、人は「生きる証」を求めているからだと言うことになる。そう言うふうにと考えると人を好きになる、人を介護するなど、対価を求めない行為の原動力は、「生きている証拠」を見つけたいと言う欲望からではないか

と思う。辛いことや、苦しいと感じる事、裏切られる事などそれ自体は嫌だけど、ネガティブな感情を抱く事なども、「生きている証」を求めたいと言う欲望の裏返しじゃないかと思う。生きて呼吸をしている人も、「生きる証」を求めているんじゃないだろうか？思い当たる人もいるだろう。

若者のように、「人はなぜ生きようとするのか」と言う青臭い悩みについて、この歳になって考えてみた。

C 2023年2月17日 福岡東南RC グランドハイアット福岡

この日もIMの説明と動員のお願いに福岡東南RCにお伺いした。ちょうど私の事務所で研修していたフィリピンからの九大留学生jasmineさんも連れて行った。おいしい食事が出ますよと言って、彼女はロータリーの紳士的なふるまいにいたく感動していた。



C 2023年2月18日 第3グループIM 戸畑

辛坊治郎の講演を聞く

2月18日、私は、戸畑で開かれたロータリーの福岡2700地区第2グループのインターシティミーティング(IM)に出席した。

私と同じガバナー補佐の貞包さん(八幡南RC)というガバナー補佐が企画したが、東京から辛坊治郎を呼んで、「明日を読む～溢れる情報の海を乗り切るために～」と言う講演が印象に残った。辛坊治郎と言えば、2013年6月の太平洋横断に出発するが、6日後、大荒れの中、鯨と衝突し漂流、死の寸前で、海上自衛隊に救助されたと言う言わば、世間を騒がせたと言う意味で有名になった人物だ。

そして彼は、再度、2021年4月9日に大阪を出発し、6月16日に、アメリカサンディエゴに到着し、7日間をヨットで休養し、そして、再び日本へ出発し、8月24日に日本、大阪に帰ってきた。これまで、頻繁にマスコミに露出し、さらには、一度は、死にかけ世間に対して迷惑をかけた人物が、又、単独太平洋横断を敢行しようとした衝動とかエネルギーは、確かに聞く価値があった。

彼のモチベーションは、「ニュースの嘘を見抜け」とか、「ニュースで伝えられないこの国の正体」とか言う著書に見られるように、世の中を懐疑的に見る姿勢だと思う。本心彼は、真実は知りたい、真実を肌で感じたいと言う衝動がある。

そこで、だからと言って、何をしたいかわからない彼は、太平洋横断という素人ではほとんど不

可能な挑戦をして、その恐怖とやらを体験することによって、何か肌で感じることの喜びと真実性を掴み取ろうと思ったのではないかと思われる。

人はどうして死ぬのか、死ぬ直前には何を考え何を欲するのかを実体験したかった。さいわい、彼は無事生還した。しかし、生還した後は、生きることすら不思議であって、自分の生きていることは、人々の支えによって生かされているという当たり前のことを気づくようになった。

そういう彼が、日々垂れ流されているニュース番組を見ても本当かなあと眉を顰めるのも当然のことだろう。目立ちたがり屋の彼の裏には、このような自分探しと人生への謙虚さがあると感じた。

「世の中は逆説でできている。」生死をかけた緊張の一瞬がマトモであり、順風満帆の日々は、人はよからぬことを考え、余りの平和さに、どこか体が悪いんじゃないかと変に悩み始める。すべてが順調な日々はうまく行っておらず、うまく行っていない日々がうまく行っているんだというシェイクスピアもどきのことを言っていた。

彼の話し方はどこか不遜であり、ネタバレ話みたいなどころがあって私には、聞きづらいところがあったが、案外、誠実に生きるという事を志向している人ではないかと思った。でも、マスコミ、マスメディアの世界では、誠実に生きると言っても、何か、自己顕示しないとダメなんだろうという気がした。色んな意味で、考えさせてくれる講演だった。

J 2023年2月19日 iPhone忘れ物体験記 第3グループIMの帰り道での事件

忘れ物をする癖が治らない!

Why can't I get rid of the habit of forgetting things ?

2月18日、戸畑のロータリーの大会に行った時に、帰りの電車の中で、iPhoneを落としたりらしい。気がついたのは、その日の夜、事務所に着いて、携帯電話を出そうと思ったら、「ない!」事務所の中を探し回る事30分、携帯がないだけに、JRにも、電話ができない。もう一つのiPadを使って、JR博多駅の忘れ物係に忘れ物の届出は来てないかと電話番号を探し、事務所の固定電話から自分のiPhoneに電話しても、まったく占有者からの返事がない。また、各JR駅に直接通じる電話番号は、全部廃止しているらしい。(何で困っているのにJRには電話が繋がらないんだろう。)

万事休すと思って自宅に帰り、明日を待つことにした。こんな時は寝られないものだ。一番自分が不幸だなどと思って寝付けられなかった。

翌朝(つまり今日)、諦めて、近くのdocomo shopに行き、iPhoneを失くしたので新しいiPhoneを買おうと相談に行った。兎に角、同期化されたiPadに電話番号やメールアドレスがそのiPadに載っているので、iPadから新しいiPhoneに情報が移行できるかどうか聞いた。すると店員さんは、Apple IDは分かっていますかと聞いた。私は知っていると言った。私は、Apple IDはこのiPadと同じと思うと言った。

すると、その店員さんは、しばらく、私のiPadをいじっていると、私のiPhoneが、今、鳥栖駅にあるという表示が出てきたらしい。店員さんは、突然、「iPhoneは、鳥栖駅にありますよ!間違いない!」私は一瞬、意味がわからなかったが、このiPadには、同期化されたiPhoneの所在が、「Find My」という機能で表示されるようになっているらしい。でも、私は、戸畑駅から博多で降りたのにどうして鳥栖駅なのかわからなかった。しかし、よく思い出すと、私の乗った電車は、快速荒尾行きだったので、途中の誰かか、車掌さんか、博多駅を過ぎて、拠点駅の鳥栖駅に預けたのかもしれないと思った。



それで、再度、docomo shopから、事務所に行き、固定電話から、博多駅忘れ物センターに電話をかけ、そこから、鳥栖駅の忘れ物係に尋ねてもらった。すると鳥栖駅の駅員は、散々そのiPhoneの形状や待ち受け画面などの確認をしたが、ほぼ間違いないという事になった。駅員は今後、どうされますかというので、私は、(勿論)今からすぐに行きますと言った。それで、博多駅に行き、鳥栖までJRに乗り、午後2時、やっと紛失したiPhoneとご対面となった。安息の休日の半分が、不安と緊張で潰れた。しかし、iPadの新しい機能と、親切な人のおかげで、一日で、私の不安は解消した。日本はなんと良い国なんだろう。

去年は、健康保険証、免許証、クレジットカードなどが入った名刺入れをタクシーの中で忘れた。あの時の方がショックが大きかったが、その時も、翌朝、早良警察署に、タクシーの運転手さんが名前も名乗らずに届けてくれた。自分のバカさ加減に呆れるばかりだ。学習能力がないか、いい加減なのかわからないが、兎に角、この癖を治さなければ、いつか大チョンボする。ホッとした途端、何故、自分が鳥栖まで来たかを忘れないために駅のうどん屋さんに立ち寄り、かしわうどんといなり一皿を注文した。

C 2023年2月20日 電気ビル IM準備

本日は、3月4日に開かれるロータリーのインターシティミーティング(IM)のパネラーの1人である九州電力の相談役、貫さんに会う為に、電気ビルを訪問した。

貫さんは我が福岡南RCの会長であり前年度のパストガバナーである。昨年、ロータリーがコロナのために例会が開かれなないどイレギュラーな活動を強いられた時に、それでも、地区大会などみんなの協力が結集されて、存在価値が発揮された時のガバナーだった。我々は、その苦労話や、電力会社として、ロータリーの役割はどんな所にあるかを尋ねに行っ



た。貫さんの思いは、カーボンニュートラル(温室効果ガスを2050年までにゼロにする政策)が今後どんなふうに進んでいくかについてだった。

これは、国を超えて職業人の集まりでありそして四つのテストを行動指針とするロータリーが活躍できる場面ではないかという事を言われた。たかがロータリーされどロータリーだが、エネルギー政策の第一人者が、国、行政だけでなく、ロータリー活動に、希望を持っておられるのに、非常に勇気づけられた。

今回は、私の他に、4人のパネリストをコーディネートしてくれる田村さん(福岡東RC)もジョインしてくれた。「社会に役立つロータリー」と言う私の掲げたテーマが、大企業のトップにも理解されていると感じ気をよくした。

この2週間、弁護士会から、依頼を受けたフィリピンの留学生をあちこちに連れて行ったが、本日は、九電の貫さんとの会議室に連れて行き、最後は記念写真をとった。

C 2023年2月25日 伊都文化会館

本日は、第5グループのIMが行なわれた。糸島RCは私の最も親しくしている田中信彦ガバナー補佐の出身ロータリークラブであるし、私の気になる後輩「南谷洋至弁護士」が講演するというので、期待して出かけた。

Don't think!feel!

It's like a finger pointing away to the moon.

Don't concentrate on the finger, or you will miss all the heavenly glory."

(Bruce Lee)

本日は、私の5歳くらい後輩である弁護士が、糸島で行われたロータリー第5グループのインターシティミーティング(IM)で講演するというので聞きに行った。彼の講演のテーマは、「Back to Basics ~ある弁護士の職業奉仕~」だった。

弁護士が職業奉仕と言うのは、誰のため、正義のため、お金のためとか色々あるが、彼は、それらは、いずれも手段であると言いたいのだと感じた。何々のために頑張ると言うのは、我々が普通に生きる生き方である。

しかし、それに熱が入ると、本当の目的を忘れる。何を忘れるかと言うと、職業にとって最も大事な「崇高な理想」である。他の弁護士と勝ち負けや、売り上げを競うようになると、弁護士になった時の理想や、裁判や紛争の現実から感じ取った人間としての肌感覚を忘れることがある。そんな時には基本に戻ることだと彼は言った。

昔は、こんな、ハッとするような事は、言わない男だと思ったが、西郷隆盛を愛するこの男は、「敬天愛人」をいつの間にか会得したんだろう。私は、ハラハラしながら最初は聞いていたが、このブ

ルースリーが喋ったと言うこの英語の文字が、壇上のスクリーンに映し出された時、彼の言いたいことが分かった。

この英語を訳すると、「考えるな!感じる!月に向かって、弓を射ようとして、弓を引く指にばかり集中するな!そんな事をしていると、肝心の月に向かって弓を射ると言う崇高な気持ちを忘れるぞ!」と言う事だとおもう。

彼のお兄さんも弁護士、彼の姪御さんも弁護士である。(私は全部知り合い。)

彼も35年弁護士をやっている。糸島RCには、彼以外にも卓話者として相応しい人が沢山いたと思うが、彼に白羽の矢が立ったと言う事は何より彼が皆から、好かれている証拠だと思う。

「熱い弁護士」、「燃える弁護士」と言う言い方は、若い弁護士の形容ではなくて、こんな熟練した、基本的な事を日々行っている弁護士の事を言うのかなと思った。



C 2023年2月27日 福岡平成RC ソラリア西鉄ホテル

ロータリークラブ例会訪問記

私が、IMを3月4日に控え、何度も福岡市内のロータリークラブを訪問するものだから、どのクラブからも、「また来たか!」と嫌がられているとは思いつつ、今日、月曜日も、お昼に平成RCに、最後のお願いとやらで挨拶に行った。

すると、何回も私が来るので、そこまでするなら、いっそのこと、アベさんこそ、自分の福岡南RCから、このクラブに入会しませんかと言われた。私は、すかさず、もう入会しますよ!と言った。この多クラブ訪問(メイキャップ)は、面倒だけど、案外、自分のクラブの良い所や反省点などを比較するには参考になるし、他クラブは、どんな週報を出しているか、どんなご馳走が出るかも楽しみなので、毎回、新入会員を連れて行くようにしている。

本日は、有楽興業という映画館をやっている野中さんを連れて行った。彼のお父さんもロータリーアンである。しかし、大抵、新人さんを連れて行っても私が紹介するまでもなく、知り合いが多いのが普通だ。でも、本人は、クラブ間で、人数、女性の有無、年齢、司会進行の緊張感など異なっているのが新鮮だったようである。私としては、こんな風に会員交流ができればロータリーの魅力も、楽しさも必要性もわかると思うのだが、会員は、宝の持ち腐れであることが分かっていない。来て



(k)、食って(K)、帰る(K)と言う3Kの繰り返し。

今日、平成RCを訪問したら、台湾、台北の姉妹クラブとの調印式があった。とうとう、海外ロータリークラブとの交流が活発になる日が来たのかと嬉しくなった。今週の土曜日にあるIMまで、全く、気が抜けないが、結構楽しんでいるような気もする。

C 2023年3月4日 IM開催日 九電ビル共創館未来ホール

一仕事終わった気分だ!!

私の掲げたテーマは「社会に役立つロータリー」だった。

そもそも社会が常に大きく変化している中で、ロータリーが変化していないし、ロータリークラブはそれを受け入れようとしていないのでは?と、私は思っている。社会がもし固定化していれば、その関わり方に対して変化する必要は無いのかもしれない。しかし、社会は有史以来、常

に変化し続けている。たとえば、「社会の変化を受け入れないし、自身が変わるつもりもない。昔はこうだったのに、今は違う。あの頃は良かった。」などというそんなロータリアンがもし、万が一いるとすれば、社会に役立つのか?過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられるという思いが心の底にはあった。この3ヶ月間、もがきにもがいた感があったが、会員にも私の思いが少しは伝わったと思う。

私にこのような機会を与えてもらった福岡南RCの会員には、本当に感謝したい。そして発表者とパネラーの皆様の思いが伝わった。ありがとうございました。



C 2023年3月4日のテーマについて

《「社会に役立つロータリー」》

ガバナー補佐になって、半年間気を揉んだインターシティミーティングが無事に終わった。今年のテーマは、この3年間のコロナの中であって、ロータリーは、役に立ったのか、無力なのか、ロータリーの目的は一体何なのかを考えてもらおうと言うものだった。

ロータリーは、一見お金持ちの団体で、仲間内の親睦を旨とする、閉鎖的な団体と思われがちだが、実はそうではない。1905年、荒れるシカゴの街で、不正や差別や貧困という社会を何とかならないか、それには、職業を通じて何かを奉仕しよう、その



ために週に一度会員の家庭に集まり、何ができるか考えようというのがスタートだった。その時のメンバーはわずか4人である。

この社会的状況は、今のコロナや、不正の多発、災害のある世界の状況と同じじゃないか!だったら、今こそロータリーの精神に立ち返り、ロータリーは社会の役に立つのか、何ができるか、どうやればできるか考えようという企画だった。この問題意識に対して各クラブが、回答を書くということで10クラブの報告があり、その後田村志朗さんがコーディネートして、4人のパネリスト、《貫正義さん(九州電力相談役)、石野洋一さん(医師)、牧田隆さん(解体機械製造業を経営する一方で、糸島で古民家を再生して地域再生を試みている)、元美和さん(元ローターアクト後、ロンドン留学後、海外人材出会いの場創設の会社を起業する)》によるディスカッションが行われた。なお、最初の基調講演には、北九州大学准教授のアンクレーニさんが、「多様性と変わる未来」というテーマで講演が行われた。このような企画は、ロータリーの内部の研修だけに留まらない、社会的な問題意識を刺激するものとして、新しいタイプの大会だったと思う。これまでは、中々、退屈で、マイナーな会議で人気がなかったが、仕事や生き方、感性までも見直すきっかけになったのではないかと思う。この大会には、我がクラブの、職業的ノリのいい会員が、期日が近づくにつれて、才能を發揮し、組織を組み立て、実に秩序ある運営ができた。ロータリアンは、まさにやればできる多業種能力集団であると思つづく感心した。このスキルと経験があれば、いろんな災害や困難にも乗り越えられると思った。ロータリーはこれまでもこれからも十分に使い物になる。

どうかこの経験を生かし、軽々と苦難を克服できる集団として、社会の前に出てきて欲しい、出てこないといけないと思った。

C 2023年3月4日 IMのアンちゃんの講演

アンコンシャスバイアス (unconscious bias)(無意識の思い込みや偏見)

昨日のアンちゃんことアンクレーニさんの、「多様性と変わる未来」と言う講演は、面白すぎたまらんやった。(アンちゃんの言い方を真似て)どこが面白かったかという全部面白かったけど、アンちゃんが、会場の参加者にこういう質問をした。

Q外国人を呼ぶときに、以下の呼び方で一番いいのはどれか。

- ①外国人 ②外人 ③外人さん
- ④外国の方 ⑤外国籍の方 ⑥外国のルーツのある方
- ⑦海外の方

答えは全部NOで、正解は、名前で呼んで欲しいだった。

アンちゃんは、永住権を持っている。しかし、日本人ではない。これが日本人である事とどう違うかと言うと、このコロナの中、外国への入出国が禁止されたときに、日本人以外の外国人が入国を禁止された時の話である。アンちゃんは、永住権どっちはあるが日本人ではない。しかも家族は全て日本

にいる。アンちゃんのお父さんが、亡くなったときに日本を出たら、再入国できない事態になったらどうしようと言うのである。つまり永住権と日本人との微妙な差がここに出た。日本政府はこんな所まで気が回らない。そこで、アンちゃんは、日本が好きすぎてたまらなかったので、帰化を申請することにした。帰化には約1年の期間が必要とのこと。アンちゃんは言う。日本人である事を証明する事はどんな方法があるのか。確かに日本人は全て戸籍謄本があるが、そこには日本人である事を証明していない。結局、アメリカ国籍を失うことに何の躊躇いはなかった。しかし、この拘りと手続きの恐ろしい煩雑さは一体何の為だろうと言う眩きがあったように感じた。さらに、アンちゃんの説明は、日本人特有の思い込みと偏見に言及した。会社の社長さんに会ったら、男性かと思ったら、女性だった。不動産の謄本をご主人にとって下さいと不動産会社から言われたが、不動産の名義人は実は私だった。



真鍋淑郎と大坂ナオミと村雨辰剛を比べると、50年近くアメリカに住んでいてアメリカ国籍の真鍋さんを日本人は日本人と言うだろう。村雨辰剛は誰より日本人で日本国籍を持っているが日本人とは誰も言わない。大阪ナオミも中途半端だ。一体、この感性、バイアスはどこから来るんだろう。日本人はどの国より住みやすいのに、誰もが自分らしい生き方ができる社会になっていない。もちろん、アンちゃんだって、unconscious biasがあるとと言う。それを解決する手段は、「理解」である。そのためには、「気づく事」、「特に自分に気づく事」であると言う。

ここまで聞いて、私は、悪気がないとか、良かれと思ってとか、お世辞と思って言うことが相手を傷つける事もあると言うことに気づく。たいした事はないと考える事が、相手には不快なことになると言うことがあるのに気づく。その中には、unconsciousではなくて、恐ろしいことに、consciousな場合もある。相手の同意があるからしてもいいと言う場合や、隠れてしても、誰も迷惑はかからないからいいやと考える場合である。(所謂不倫や、夜中の公園の隅でする立ち小便)。小さな違反だからいいやと考える場合もある。つまり、大したことないと思っているところに畏があるような気もする。

確かに、アンちゃんの講演を聞くと、気楽に生きてきた今までとは違う時代が来ていることを実感する。しかしまず、consciousなルール違反と、unconscious biasとをまず区別して、consciousなルール違反は、極力避けて、unconscious biasかどうかは、相手とのコミュニケーションで「理解」を深めると言うことになるだろう。

最近、相手の女性に恋焦がれて、家にまで侵入したアナウンサーもいれば、大した事はないと、お湯の入れ替えをしなかった旅館のオーナーもいる。頭に血が昇っていたり、大したことないと思ったのだろう。オリンピックの滞りない進行を期するために談合したオリンピックの担当者もいる。良かれと思ったり、これまでやって来た事をやったのになぜ悪いのか(自分だけ罰されないといけな

いのか)と言う思いもあるだろう。波風を立てないことが日本人の美風になっているので、このシステムはそう簡単に変えられるものではない。その先に、unconscious biasがある。であるので、unconscious biasを克服するのは、これまでの日本人には厳しい課題である。

C 2023年3月4日 IM

Good Job!結構、いい男揃いの、福岡南ロータリークラブ

先週、3月4日のインターシティミーティングを終えて、お疲れさんの最後の挨拶をしている時の、福岡南RCの面々だ。皆んな、一国一城の主人なのに、朝の9時から夕方5時半まで、ニコニコしながら、会場の整備をしたり、参加者の案内をしてくれた。よくみると、皆んな背広姿もカッコいい。good job!有難う!



I 2023年3月6日 会長幹事会 グランドハイアット福岡

ハツとするようなdinner room 目の覚めるような真っ赤な薔薇

高級感溢れるレストランで、ロータリークラブ2700地区第4グループの会長幹事が集まった。話題は、勿論、先週土曜日、電気ビル共創館で行われたIMの話だった。



G 2023年1月中旬 台湾からの招待状

What a wonderful invitation!

今年、やっと、台湾、台中から、招待状が来た!今年6月8日が創立記念日だ。

3年間、この日を待ってました!台中西北RCは、もてなし方が、ハンパない!それでいて、普段着のもてなしだ。海外に友人がいると言うのを感じるの、とても素晴らしいことと思う。台中西北RC訪問は、ロータリアンになってよかったと感じる日だ。3年ぶりに、思い切り、羽を伸ばす!

J 2023年3月19日 糸島ワイルドベリー

糸島の田舎で幸せな気分になる

IMのご縁で知り合った城南RCの水野さんに、休日誘われてわざわざ、糸島まで行った。彼は福大の経済学部教授をしていたが、父親が切り絵作家をしていたと言う事で糸島の跡地に、切り絵展示場とコンサートサロンのようなものを作り、ほぼ毎週、音楽家を呼んで演奏会をしているそうである。私がIMで考えついた企画がとても面白かったと褒めてくれたので断るわけには行かず、私は、糸島RCで、第5グループのガバナー補佐の田中信彦さん(田中六五社長)を連れて出席することにした。

コンサートホールについてまず目についたのが、世界三大ピアノの一つと言われるベーゼンドルファーがあったことだ。スタインウェイ、ベヒシュタインと並んで昔から有名だがこれを初めてみた。そこで、今回、演奏されるのは、琴と(津軽)三味線とピアノのコラボだった。琴の音色は流れる滝のようであり、三味線は、弦楽器というより力強い打楽器のように感じた。ピアノは、David BowieのLife on Marsと言う曲だったが、私には、フレディマーキュリーのbohemian rhapsodyのように感じた。このコロナの3年間で、ナマの楽器の音色を聞かなかったので、耳に非常に心地よかった。糸島の沈む夕日を遥かにみながら、それが静かに幕を下すように、暗闇となり、街の小さな灯りが点滅し出すのをみながら、久しぶりに、幸せな気分になった。



C 2023年3月18日 第7グループIM 船小屋温泉ホテル樋口軒

最後のIM

2700地区最後のIMが船小屋温泉駅近くの樋口軒で行われた。タマホームの玉木康弘社長の筑後弁でのサクセスストーリーは極めて面白かった。ただ30分以上遅れてきて、資料もなく話すというのはもう少しサービスがあってもいいかなと思った。



C 2023年3月23日 福岡東RC ホテル日航福岡

地下鉄七隈線延伸

福岡東RCにIMの御礼の為に出席した。昨日、福岡東RCの例会に出席したら、来週月曜日の3月27日に地下鉄七隈線が天神南駅から博多駅に延伸するのにちなんで、福岡市地下鉄経営戦略懇話会委員の辰巳浩福岡大学工学部長(教授)の卓話に遭遇する事ができた。辰巳教授の説明によると、延伸は、天神南駅から櫛田神社前駅を通り1.4kmである。博多駅まで開通することによって、沿線駅からは乗り換え時間も含めて14分短縮されることになる。地下鉄空港線との乗り換えは改札内移動でホームからホームまで約150m、JR線との乗り換えは、改札口から改札口まで約180mである。福岡市南西部からのアクセスが飛躍的に良くなり、特に、福岡大学、中村大学、福岡歯科大学など学生の多い地区からの利便性は凄いと思われる。私も六本松に住んでいるので、博多駅に行くにはタクシーもバスも要らない、地下鉄でOKである。



博多駅まで開通することによって、沿線駅からは乗り換え時間も含めて14分短縮されることになる。地下鉄空港線との乗り換えは改札内移動でホームからホームまで約150m、JR線との乗り換えは、改札口から改札口まで約180mである。福岡市南西部からのアクセスが飛躍的に良くなり、特に、福岡大学、中村大学、福岡歯科大学など学生の多い地区からの利便性は凄いと思われる。私も六本松に住んでいるので、博多駅に行くにはタクシーもバスも要らない、地下鉄でOKである。

辰巳教授は、都市(デザイン)工学が専門という事であり、どんな町が住み良い街であるかを考えることは何と楽しい事だろうかと思った。そこには、産業や、人口、歴史と文化、地理的、地形的要素、未来予測などが含まれており、人間の叡智の全てが導入されることになる。中々エキサイティングな卓話だった。辰巳教授は、体格、風格も魅力的であり、いい人を見つけた。

J 2023年4月7日 アンちゃんを囲む会 トラットリアデルチェーロ

金曜日の夜、私は、開放感から、一緒に飲みたい人をかき集めた。夕食会の主客は、ロータリーのIMで基調講演を行なったアンちゃんことアンクレシーニさんに会いたいと言う人もいて、結局は10人になった。ロータリアンの中にはイギリス、スウェーデン、イタリアなどで留学、就職した人など隠れた経歴を持つ人が沢山いて、みんな、あの時の苦労や経験を思い出したようだ。自然に会話は、国際文化比較となった。だから酔っ払う暇がなかった。中でも、日本人は何故、我慢、辛抱するのが好きなのかと言う、当たり前なのに疑問をもつアンちゃんに、参加した日本人が次々に反応した。日本人のどうでもいい事が、外国人には違和感がある。このセンスは、語学を学ぶ前に我々が習得すべきことではないかと思った。



私は、英語はso-so だが、話すことも聞くことも全く気後れがしない。何故なら自分の言いたい事を持っているからだ。分からなかったら聞き返せばいい。英語崇拜感情は、やはり、元をただせば敗戦国の弱みだろうか?いや、そんな時代は終わっているだろう。所詮、人間関係への興味の有無だと思う。気になる人の集まりが、すっかり、楽しい勉強会になった。レストランは、薬院のトラットリアデルチェーロ。

E 2023年4月15日 対馬RC 対馬ちんぐロータリー衛星クラブ認証式

福岡の飛行場に、ただ一人

対馬のロータリークラブ訪問のために、実に半年ぶりに、飛行場に来た。ところが、搭乗手続きが分からず、また、チェックインの仕方が変わったとか言うので、午後2時の出発なのに、2時間も前に到着した。正に海外旅行には違いないので、そんな気持ちになったのかな?ロータリーの行事なので、不安はないけど、一人ぼっちの孤独感はある。もっと開放された気分のはずだったけど。



E 2023年4月15日 対馬RC 対馬グランドホテル

対馬ちんぐロータリー衛星クラブ

対馬ちんぐロータリー衛星クラブ認証式にガバナー補佐として参加した。

対馬RCは、会員21名、平均年齢67歳と言う、何とも、表現できないほど、高齢化が進むロータリークラブだった。昨年10月、クラブ協議会に参加して、何とかならないかと言ったら、チャーターメンバーさん(上原さん、松原さん)曰く「それは、とっくに考えている。聞くところによると、衛星クラブという、ローターアクトでもない、インターアクトでもない、親クラブの人工衛星みたいな子クラブを作るやり方があると聞いたが、それをやろうと思っている。」と言う。さて、言うは易し、行うは難しと思っていたが、何とそれから半年後に、12名の若者、平均年齢46歳を12名も一気に集め、本日認証式となった。会員たちの危機意識はハンパではなかったのである。

認証式では、若い会員に四つのテストやバッチが一人ずつ手渡された。彼らは、まるで、小学校の入学式のように神妙な顔をして初々しかった。懇親会が始まり、乾杯の音頭を取るように言われた私は、また、自論を喋り出した。

四つのテストには、

- | | |
|-------------|---------------|
| ①真実かどうか | ②みんなに公平か |
| ③好意と友情を高めるか | ④みんなの為になるかどうか |

とか書いているが、そんな奉仕の精神に書いてないが、最も大事なテストがある!それは、「自分のためになるかどうか」だ!自分のためにやるのが、みんなのためになることじゃないと意味もないし、面白くない。

こう考えると、ロータリーは今までやってきた事をやればいいことがわかる。職業を通じて社会に役立つ事をやればいいからカンタンだとハッパをかけた。場違いな演説にみんな、変なヤツが福岡から来たという顔をしていた。

衛星クラブは、年会費は親クラブの半分、例会も月に2回と若い人達の生活を考えている。彼らは、ITも得意で、ノリがいい。きっと親クラブと一緒に、活動を幅広く盛り上げてくれるだろう。会場には、対馬市長や、県会議員、色んな分野で活躍している人が出席していた。私は、ご主人が韓国人で、奥さんが日本人という夫婦が、NHKで出演して、対馬で国際交流を図っているというテレビをみたがその夫婦が、ロータリアンであったのには驚いた。韓国語を褒めてくれて非常に嬉しかった。福岡のロータリークラブより、凄く盛り上がった。



E 2022年4月15日 対馬ちんぐロータリー衛星クラブ 対馬グランドホテル

小さな旅 潮風と新緑と教会と

タラップから降りると大きなプロペラの音が、昨日までの記憶を掻き消しこれからの旅を予感させる。コートを着たくなるような冷たい潮風が、頬にあたり、もう既に、自分が違う人物になった気分だ。

ホテルに着くとベランダから見える新緑も心がざわめく様な美しさのように感じる。あの教会は、何だろう。海と新緑と教会が、旅情を演出している。都会の美しさとは、また異なる。僅か30分のフライトだったが、凄く遠いところへ来たような気がする。私の他には、誰もいない。小さな旅でも、心の渇きを潤してくれる。こんな旅で十分だ!そうでしょう?



D 2022年4月19日 福岡RC 西鉄グランドホテル

豪華な創立記念日

九州で最も古い福岡RCが、本日90周年を迎えたということで、ガバナー補佐として招待を受けた。

会長の太宰府天満宮の西高辻さんは、これ以上ないおもてなしをしたいと張り切っており、招待される側も緊張しながらワクワクした。記念式典では、皇室の彬子女王殿下が、文化と伝統のあり方について講演された。6年間、イギリスで勉強された方で、可愛いくもあり、ユーモアのある開放的な感じの方だった。私は、初めて皇室の方を間近にみる事ができた。ミーハーな私は、一緒に記念撮影を申し込みたかったが、そばにいる人がとても緊張していたので、やめた。

記念式典では、グランドホテルでこんな豪華な食事が出るのかと思えるほどの料理が次々に出てきて、見た目も食欲も圧倒された。ワインは、福岡RCの会員のニコラさんが自慢のボルドーワインやシャンパンを選んで提供された。白ワインは、グラスを手にしただけで、柑橘類の強い香りが鼻を刺激し、赤ワインは、しっかりした濃厚な味覚が、口の中に広がった。バックには九州交響楽団の四重奏団が途切れなく音楽を奏でた。

福岡RCは、昭和8年に大阪RCの子クラブとして誕生した。

戦争になり、ロータリークラブは一時解散したが、ロータリー精神を残そうと有志が集まり、福岡誠和会として戦争中も継続した。昭和38年には、30周年を記念して、高校生に無償で、学費を3年間給付すると言う制度を作りこれが今も続いている。今日のパーティーにはその高校生も20名近く招待された。

今、福岡RCは、約130人を擁する、九州きっての代表クラブとして君臨し、例会のやり方、青少年奉仕、国際奉仕、社会奉仕など模範とすべき活動を行っている。本日の記念式典の参加者は、190名を超えていた。もうこんな豪華な記念式典はないだろう。こんな時に、ガバナー補佐の役割が回ってきて嬉しかった。稀に見る貴重な体験だったが、一度くらいこんな目に遭ってもいいだろう。

福岡RCは、大阪RCの子クラブとして、1933年(昭和8年)に創設された。(つまり、福岡RCは、今年で90年になる。大阪RCは、100年。)福岡RCは、次々と子クラブを作り、その数は18クラブになる。

順番通り言えば

1934年 門司RC	1952年 久留米RC	1956年 福岡西RC
1936年 長崎RC	1952年 佐賀RC	1957年 福岡南RC
1939年 熊本RC	1952年 鹿児島RC	1960年 甘木RC
1949年 小倉RC	1954年 大牟田RC	1970年 福岡東RC
1951年 佐世保RC	1955年 若松RC	1992年 福岡平成RC
1952年 下関RC	1956年 八幡RC	

である。

その子クラブは孫クラブを作り、その数は68クラブとなった。どうしてこの90年の間にクラブを増やしたりしたかと言うと、経済活動が、社会活動と一体になっているからと経済人が考えたからだと思う

し、職業奉仕=倫理と考えたからだと思う。

特に、福岡RCは、日本が戦争に突入しようとした頃、創立され、第一次世界大戦によって、一時、国際ロータリーから脱会をしたにも関わらず、既にその時までには門司、長崎、熊本のRCを設立した。その後は、解散させられたにも関わらず、戦争中は昭和16年、福岡誠話会という名前を変えてまで、週一回の例会を続けた。

敵国で生まれた団体でもその価値を見出し日本でも続けようとしている所は、隠れキリシタンのものである。

斯くして、戦後、昭和24年に正式に国際ロータリークラブの一員として認められてからは小倉、佐世保、下関、久留米、佐賀、鹿児島と矢継ぎ早に九州全体に、RCを作っている。この組織や会員拡大は、日本の経済成長と表裏を成して

いて、当たり前のように感じるが、実はそれだけではない。私がロータリーに対して感じるのは、この戦前、戦中、戦後を通して全く、分裂、対立がないことである。他の宗教団体、政治団体、国家などが対立分裂するのは全く異なっている。わかりやすく言うと、経済人が儲かるためにだけやっているのではなく、職業の貧富の差を超えて、職業を通じて世の中の役に立ちたいと言う理念が受け入れられたからだと思う。職業を通じて世の中の役に立ちたいと言うのは、普通の人間なら誰でも思っていることであり、だからこそ誰でもできる。福岡RCの歴史をみると、そんな意味があるのだと思ってしまう。

今は、コロナと戦争と、災害と、生態系の崩壊で、政治も宗教も法律も役に立たない。ひょっとして、今を救うのは、ロータリー活動こそではないかと思ってしまう。



F 2023年4月28日 2700地区大会 北九州市ソレイユホール

《命ってなんだろう》

今年のロータリー地区大会は、ガバナー補佐としてみると、議事進行にいくつか難点はあったが、渡辺知子一座の、演奏、演技は、その欠点を何倍にも凌駕するほど素晴らしかった。(私は渡辺知子さんと言う人を全く知らなかった。)

主役は、大半が障がい者。渡辺知子座長は、自ら血小板減少で「死に損なった人」。そして、太鼓を足で叩く人(遠くから見たので男性か女性かわからない)、ハングラライダーで墜落事故に遭い、手と足が動かない人達が、演奏や、語りをしている。3人と



も自分で「死に損なった人」と言っていた。特に、サリドマイドで両手がなく生まれた人は、手が不自由だと全く思っていない。足でビールジョッキを掲げて飲んだり、太鼓を叩いたりしている。手はお母さんのお腹に置いてきたらしい。その人たちが健常者と同じように演奏してした。渡辺知子さんは必死で努力してエレクトーン奏者となり、夫のフルート奏者と、ひまわりと言う曲を弾いた。命は、かけがえのないもの。ひまわりの種のようにどんな人にも与えられた命は、皆んな同じ大切さを持っていると感じた。

そんな演奏に続いて、突然、好色五人女の「八百屋お七」の話が出てきた。どんな苦難にもめげない渡辺さんが同じモチーフとしたのが「八百屋お七」だったようである。「八百屋お七」の話しを今知っている人はごくごく少ないだろうが、掻い摘んで要役すると、自宅が火事になって避難したお寺に預けられた「お七」がその寺の若い僧侶「吉三郎」と恋仲になって、ところが、その自宅が再建されたので、「お七」は、元の自宅に戻ったが、やはりその「吉三郎」を忘れられなくて、自分の家に火をつけ、また元のお寺に戻ろうとした話だ。この障害者としての運命にもめげずに生きていく姿勢と、恋の情念に狂って、死罪にも該当する放火を敢行した「お七」がどう接点があるのか、衝撃的な質問を聴衆に突きつけた。私は、「お七」も両手がないその人も、必死で生きていく上では同じだと言うのではないかと感じた。人は、いつもどう生きていきたいのか考えている。同じことをこの二人も考えているが、その境遇の凄まじい所が、逆に私たちが日頃ボーっと考えている生きる意味を突きつけてくれる。生きるというのはいそれ程凄いことなんだと思う。

このパフォーマンスを見たロータリアンがどこまで渡辺さんの真意を汲み取ってくれたかわからないが、このメッセージ性の強い演出も終わってみれば、生きる意味について、問い続けることが生きる意味だと言っているような気がした。心を久しぶりに揺さぶる演奏と演技にすっかり打ちのめされた。

F 2023年4月23日 2700地区大会 小倉ステーションホテル

小倉ステーションホテルから見た朝の風景

22日のリーガロイヤルホテルの晚餐会に続いて翌日23日のロータリー地区大会には、ガバナー補佐として朝の8時半にソレイユホールという小倉の会場に集合せよと言う事だったので、福岡に帰るのはやめて、初めて小倉のホテルに泊まった。



中学3年生と高校3年間でバッチリ小倉で過ごした私が、まさか、小倉でホテルに泊まることになるとは人生、変な巡り合わせだと感じた。小倉は私にとって暮らす所であって、お客として来る(泊まる)ところではなかった。ホテルの朝食を食べながらもチットも旅行者の気分になれなかった。ホテルの最上階から見える、小倉の町は、私が高校を過ごした時とはガラッと変わっていた。モノレール

が走り、駅前には近代的なビルや青い空が、広がっていた。当時、私が自分の知っているのは、高校と自宅と、井筒屋、魚町だけだった。あれから50年以上経って、ステーションホテルがこんなに立派になり、私は、ここで朝食を食べることになるなんて、誰が想像しただろう。旅行の気分にはなれなかったが、少しの間、昔を振り返る「旅人」にはなった。

C 2023年4月28日 津むら

パネリスト達の慰労会

この日はIMでパネリストをつとめてくれた貫さん、田村さん、牧田さん、石津さんを招いて慰労会を開いた。本当にこの人達は、IMを盛り上げてくれたと感謝している。ロータリーに社会性や奉仕活動の中に主体性を持つことが可能であり必要だということが、みなさん身についていると感じた。



H 2023年4月29日 ガバナー補佐会 久留米丸秀鮮魚店

バンザイしている人がいる!

西鉄久留米駅近くの「丸秀鮮魚店」と言う居酒屋。

このお店は、サラリーマンが仕事を終えてチョットいっばいやろうかと言う感じのお店だった。でも、この写真の人たちは、サラリーマンではなく、60代後半から80歳にかけての前期、後期高齢者。一体どんな人達だろう?この人達が、私と同じ福岡県に61あるロータリークラブの「ガバナー補佐」である。何か、曖昧な名称だが、



要するに、福岡県、壱岐対馬にある61のロータリークラブを統括するガバナーの「社外取締役兼小使い」みたいなものである。職種は、造り酒屋、電波通信工事会社、タクシー会社、税理士、宮司、果樹園経営、弁護士などである。この仲間とは、今年6月末で任期が終わるが足掛け3年行動を共にした。意味不明な役職に不満、不安を持ちながらも何とか、やり遂げ、色んな人と巡り合った。仲良くなった。面白い人達だった。

これは、この歳になって、拡大再生産のキッカケにもなるだろう。

J 2023年5月11日 福岡南RC ホテルオークラ福岡

目だけが、モノを見る方法ではない

本日、我が福岡南RC例会場に、パラリンピック、ゴールボール選手の浦田理恵さんがこられた。私は、半年前、立花高校で開かれた高校生ゴールボール大会の練習でお会いして、彼女のスタスタ歩く姿や真っ直ぐ立っている人がとても目が見えない人とは思えなかったので、「とても目が見えない人とは思えませんね!」と会うなりそう言った。(何でも、初対面でも、思ったことをすぐペラペラと喋ってしまうクセが、だんだんひどくなっている。)その彼女が例会場に卓話者として来ていたので、すぐに、「こんにちは、立花高校でお会いしましたよ!」と声をかけた。



すると、驚く事に、彼女の方から、「覚えてますよ!安部先生でしょう!あの時、『本当に、目が見えないんですか!』と私に声をかけたでしょう?」

そう言われて、私は、本当にびっくりした。たった二言三言話ただけなのに、どうして、わたしの名前やその時に言ったことなどまで覚えているんだろうか?

あの時、私は実際、浦田さんが、健常者としか思えなかったが、彼女の方から、私の肩に手をそっとおいた時、私は、ハッと気付くとも優しい気持ちになったんですよと彼女にその時の思い出を語った。

壇上で話を始めた彼女は、小学校の先生になろうとして熊本から、福岡に来た時に、どんどん視野が狭くなり、ほとんど見えなくなるという進行性の目の病気に罹った。だが、それを誰にもいう事ができない。その事を見破られないために外に出かけるのも恐怖だった。お化粧して天神を歩く希望も、怖くてできなかった。母親からかかってくる電話にも、本当のことが言えず、苦しんだ。一年半の進行性病魔のために、熊本にも帰る事ができなかったが勇気を出して、天神駅から大牟田線に乗って大牟田駅についた時、お母さんが出迎えに来ていた。理恵ちゃんと大きな声で母が声をかけたが、娘の歩く様子がヨタヨタして何か、おかしく、改札口で、「理恵ちゃんどうしとった?」と声をかけると、理恵さんは、「私は目が見えんごとなつとよ。」と言った。すると「そんなはずはない、この指が何本あるか数えてみてごらん。」と三本指を立てた。理恵さんは、その母親の指を触りながら三本と言った。

娘の言うことが真実とわかって、母親は、しばらく泣き崩れた。娘の辛い気持ちと我慢の日々を知って、どうしていいかわからなくなったんだろう。泣いた挙げ句、母親は言った。無くなったものを後悔してもつまらない。あるもので、ないものをカバーして生きていこうと言った。

理恵さんは、誰にも内緒で、苦しんできた一年半の後、母親に話した事で、解放され、自分一人で苦しむのではなく、誰かのサポートや、ないものをあるもので補っていこうと決心した。自分がこう言うホテルの例会場で話せるのは、理恵さんを支えてくれる人が、このホテルの広さや、段の高さ、段の形状、マイクの位置などが歩幅で何歩の長さや高さにあるかを教えてくれるからだし、前にもこのホテル

で、ロータリークラブの卓話をさせてもらっているから覚えているのだと言った。

実際、彼女は、マイクのある壇上から一人で降りてきて、会長のいるメインテーブルまで歩いてきて、又、元の壇上に上がって行った。それを見ていた会員たちは、慌てて立ち上がり、手助けをしようと思ったほどだった。目が見えないのにここまで出来る勇気と努力は一体どこからきたんだろう。彼女は、ものを見るのは、83%が目で見えるが、そのほかの方法、例えば、耳や、触覚、他人の声掛けや助け、記憶などで補う事ができると言うのである。あれもしきらんこれもしきらんとつい言ってしまう我々の不満が、ワガママや子供の様に見えてしまった。私はつい、泣いてしまった!

J 2023年5月18日 福岡南RC ホテルオークラ福岡

～楽しく参加したくなるクラブ運営～

我が福岡南RCの例会で、2700地区クラブ運営支援委員会委員長の吉行亮二さんの卓話があった。ご覧の通り、長身のスマートな紳士である。卓話は、「地区とクラブの関係」～楽しく参加したくなるクラブ運営～だった。



2700地区には、沢山の地区委員会があり、地区内の61クラブから地区委員が出向しているが、俄然、やっていると専門的というかオタク的になり、毎日の業務で、おおわらわのロータリークラブとは乖離する傾向がある。それは双方にとって良くないので、何とか相互理解を深めようと、河野さんと言う我がクラブの研修リーダー(元アナウンサー)が、本日の卓話を企画した。

思うに、地区執行本部は、理想が高く、しかも、会員増強やロータリー研修と題して、アレもやれコレもやれと言うように押し付けがましい所があり、ロータリーがよく分かっていない新会員、一般会員などは、この研修そのものがアレルギーとなっているきらいがある。しかし本当は、そんな無味乾燥、無駄なものではないが、その誤解を埋めようと思って、河野さんは一計を案じたのだと思う。その仲介者として、小倉南RC出身の吉行さんを連れて来た。彼は、ロータリー歴を見ると2017年から6年間ズット地区に出向している。気の毒としか言いようがないが、ニコニコしているので、言葉がかけやすい。本業は、会社の上場をお手伝いする会社を立ち上げ、沢山の会社の社外取締役や監査役をしている。そして、快く卓話を引き受けてくれたが、私との対談形式(!)と言う言葉を聞いて、急に腰が引けたようだ。私が、日頃、地区のやり方に皮肉や愚痴ばかり言っていると感じたからだろう。でもそんな事はない。本業を割いて、ロータリーに貢献している人には本当に頭が下がると思っている。それで、私に対する誤解を解くためにも、吉行さんを持ち上げた。事業譲渡に関する紛争をたくさん抱えている私としては、ロータリーのことより、本業の会社経営の質問をしたかった。

斯くして対談は、コロナの中で、ロータリークラブと地区本体の関係はどうなっているか、130人

を抱えるクラブもあれば、20人未満のクラブもある、そんな多様な各ロータリークラブを地区はどれ程実態把握して、何を指導しようとしているのか、国際ロータリーの問題点は何かなど、脈絡もなく、話が進んだ。話しの途中で、上場するのはいいことか、得なのか?とか私の個人的質問も入れた。全ての質問に、まるで打ち合わせしたかのように、吉行さんは、待ってましたとばかりに、答えてくれた。勿論、全く打ち合わせなどしなかった事は言うまでもない。

ロータリアンというのは、このように、そんなに知り合いでもないのに、あえば、気軽に、お互いを尊重しながら、話しが弾むもんだと実感した。少なくとも、ガバナー補佐として、私は、いい気分になった。

H 2023年6月3日 福岡いずみ

ガバナー補佐7名全員が集まり、福岡のいずみで夏なのにふぐを食べた。いろいろこの1年にあったことなどを話した。



G 2023年6月8日から6月10日まで 台中西北RC 創立47周年記念式典に参加

《台中西北RC》

平成13年、私が福岡南RCの幹事になってから、コロナの3年間を除いてほぼ毎年台中西北RCの創立記念式典に参加している。もう20回は超えていると思う。

毎年行くのは、彼らの下にも置かぬ歓待もあるが、台中西北RCが、台湾ではダントツの規模を誇るロータリークラブに発展しているのを見聞する目的もある。私が、訪問し始めた頃は、同クラブ70人くらいだったが、確実に会員を拡大し、135名くらいなり、しかも、平均年齢も



55歳くらいを維持している。

私はガバナー補佐になって、如何に会員を拡大するのが難しいかがわかった。RCは、自分達だけ楽しもうと閉鎖的になりがちだし、努力しないとすぐに高齢化する。

そうすると、社会に貢献するどころか、社会に遊離する。これが怖い、台中西北RCは、これを奇跡的に乗り越えている。我がクラブと偶々友好クラブ関係を結んだとはいえ、これ程、台湾を代表するクラブになったのは私にとっても、自慢の種である。

このクラブは、タイや、フィリピンとの姉妹クラブもあり、活躍がワールドワイドである。又、会員の奥様達も会員と同様にRC活動に参加していると言う特徴もある。奉仕活動も沢山行っている。ロータリーでは姓で呼び合わないで、ファイアーさんとか、スーパーさんとかロータリーネームで呼び合う。職業とか地位とか肩書とかとは関係ないと言う意味だろう。

「アベさん、一年にいつペンしか来ないなんて遠慮しないでいいから、2回きてもいいよ。」と、Paulさんと言うパストガバナーは言う。今年の会長のtradingさんは、2泊じゃなくて、来年は3泊してくださいと言う。おもてなしがハンパじゃない。こんな時は、もう甘えて、2回でも3泊でもするしかないと思っている。本能的に、私は、台中西北RCが私に合うのである。

台湾は、食事の天国である。私は、この20年間通って、一度も同じ食べ物を食べたことがない。果物も新鮮で、南国気分が詰まっている。もう、行かない手はないでしょう。

この写真は、全体の10分の1です。どれを載せていいかわからない。

G 2023年6月8日 台中西北RC訪問

ノリの良い男増田さん。それでいて、爽やか。

本職は、薬剤師。

台中の我々の常宿、全国大飯店での朝食です。次の友好クラブ訪問を担う人。



G 2023年6月9日 台中西北RC

台中国際高爾夫倶楽部 TAICHUNG INTERNATIONAL COUNTRY CLUB

台湾に到着した翌朝は、台中西北RCの人達とゴルフ。このゴルフ場は、南国の花が咲き聞いたこともない鳥がさえずる別次元のゴルフ場だった。とても立派なゴルフ場だと思う。又、このゴルフ場は約20年前に台中が大地震にあった時、我がクラブが募金活動をして、記念の梅園の植樹をしたゴルフ場でもある。その時、私は、その植樹に幹事として参加したので、はっきりと記憶がある。いまでもその時の石碑が残っていた。その石碑を今年も確認してプレイした。



今年雨は降らなかったが、非常に蒸し暑く、後半の9ホールは、頭がボーッと私は、危険水

域に入ったような気がした。それでも、歯を食いしばって、最後までやり抜き、その後は、又、接待されるがままに、マッサージに突入した。本当にここまで、お世話になっていいのかなといつも思う。甘えるのも礼儀だと思って、その好意に甘えた。

G 2023年6月9日

朝食の寛いだ風景

4年前の同じ旅行の同じ全国大飯店で、執行さんが一人でユックリと朝食を取っているのが私の目に留まり、感じがいいなと思った。台中西北RCの訪問を気に入ってもらっているんだなあと思い、今回も私から、お誘いし、旅行の一員になって貰った。

彼、執行健三さんは、久留米で日本料理店を経営していると聞いているが、台湾にもニュージーランドにも経営を広げていると聞いている。地味だけど、しっかりと台中西北RC創立記念日の楽しさと、有意性を感じてくれている正に得難い人だと思っている。こう言う人たちが今回の旅を支えている。



力武源明さん、いつも有難う。日本中を仕事で駆け足で、回っている最中に、台湾のロータリークラブ訪問に付き合ってくれて有難う。ロータリーのゴールボール大会でも、小学生バレーボール大会でも率先して参加していただき、嬉しいです。

今回も、記念式典の後、2日目は、ゴルフ、マッサージ、ウエルカムパーティ、そして深夜のカラオケ。最終日は、ヤムチャで、昼からビール。タフさは比類なく、付き合いがいいとは言うものの、しっかり足が地面についているので、皆からの信頼が厚いです。きっとこれから、我がクラブを支えてくれるでしょう。



G 2023年6月10日 台中市全国大飯店にて

台中ビッグバンバン

台湾は、急激に発展している。

台中でも天神ビックバンとは比べ物にならないほどの超高層ビルが、そこかしこに建築されている。所が、その中で、台湾の朝は、太極拳のポーズをとる人たちが、あいも変わらず、ゆっくりと朝の時間を楽しんでいる。街の近代



化が、人間の生活の変化とマッチしない。コレが台湾の魅力だ。

J 2023年6月9日

福岡南RCのlegend

私が、井上喜の井上良弘さんと最初に言葉を交わしたのは、1998年、新装なった香港国際飛行場だったと思う。その時、私は、香港の弁護士に会いに行ったが、彼は一人で、福岡行き飛行機を待っていた。旅慣れた一人旅の様だったが、誰か連れの女性はいないかと私の方がしばし慌てた。爾来、彼とは、しばしば、オーストラリアに行ったり、イポー、台湾にご一緒したりしている。



今回の台中西北RC創立記念日の訪問でも、台湾がどうなっているか見たいんだよと言って、勝手に自分で飛行機の切符やホテルを手配し我々と同行した。台湾の株主総会に出席する目的や友人にも会う予定だと言う。記念式典が終わり、翌日、「台湾はどう言うふうに写りましたか?」と聞くと、彼は、「随分台湾らしさがなくなったね。」と言った。この超高層ビルと綺麗な街並みを見ると、その変化に誰の目にもそう映るだろう。そして、こんな変化は日本にもあった。それは明治維新だ。あの時は、賛否両論あるがカオスの時代だろう。一方、江戸時代は300年続いた。統治方法としては最も優れているのではないかなどと、我々は、日本文化論、統治論などの話題に発展した。海外に行くについ、日本のことを考えてみたくなるものである。斯くして、井上さんとの会話はどこにいても貴重である。福岡大空襲などを経験して、企業の辛酸を舐めた人は、確かに味わい深い。因みに、彼の会社の電話番号は、〇〇〇の0001である(福岡市での電話番号No.1)。

でも、4年ぶりの海外旅行で驚いたのは、今回、中華航空では、食事の前のアルコールが出なかった。コレは些か、がっくりだった。僅か、2時間20分の飛行だから、飲む気はないが何となく残念だった。そう言えば、手荷物を預けるのは、エコノミークラスは、一つだけに限定され、私の様に、ゴルフバックとスーツケースの二つを預けるとなると追加料金が必要になると言うことだった。添乗員の人に相談するとbusiness classの人は、2個まで大丈夫だから、我々のグループの中のbusiness classの人に願いましょうと言うことで片がついた。中々、時代の流れや、世知辛くなっている事を感じた。短すぎるflightのせいかも知れないけど、その分、日本から、脱出してない様な気分になった。写真は、それでも、ウキウキ感を醸し出す機内食だった。(根が単純に出来ています)

I 2023年6月15日 福岡南RC 嵯峨野

日本的な美しさ

二泊三日の台湾旅行を終えた翌週は、料亭「嵯峨野」で、福岡南RCの新旧会長幹事歓送迎会となった。

日本的な情緒に飢えていた私は、博多検番に日本酒をお酌して貰った。私は、その若く白い手に日本的な美しさを感じた。



I 2023年6月19日 会長幹事会 ホテル日航福岡

◀アクの強いガバナー補佐>

本日(6月19日)は、ロータリーの第4グループの会長幹事が集まる会長幹事会がホテル日航福岡で行われた。任期が今月6月末で終わりなので、皆さん、解放感に満ちていた。自然と話は、今年一年の反省と思い出話になったが、何となく、話が、安部ガバナー補佐に対する感想という流れになった。

皆さんが言うには、私は、とてもアクが強く執着性の強いガバナー補佐だったらいい。Facebookには、毎日の様に、ロータリー活動するをアップするし、例会には、今までのガバナー補佐とは違って、3回も4回も出てきて、動員を呼びかけたり、話したがる。クラブ協議会では、「なぜ、このクラブは、インターアクトがないのか?」「このままじゃ、高齢化クラブになる」とか、思いついた事をペラペラと喋る。楽しんでるのか愚痴っているのかわからないなどと言っていた。気になるから言っただけなのに、よっぽど刺激になったんだろう。

それから、四つのテスト(1、真実かどうか、2、みんなに公平か、3、好意と友情を深めるか、4、みんなの為になるかどうか)について、話しが集中した。私がいつも、ロータリーの有名な四つのテストには、一番大事なものが欠けている。それは、「みんなの為になるかどうか」の前に、「自分の為になるかどうか」がある。「自分の為になる事」が、「みんなの為になる」様でないといけないと言っていた。その言い方がしつこかったんだと思う。それでも、各会長は、自分の為になろうとしてロータリー活動をしていたわけではないが、この一年を振り返ると、「結果としてロータリー活動は自分の為になった。」と言っていた。「そうなんですよ。それで、いいじゃないですか。」「自分の為になるかどうかは、何でも、結果が示してくれる。」と言いたかった。

本日は、遠く、対馬RCからも会長幹事が来られていた。高い旅費を自腹で来ていただいて本当に嬉しかった。



あしがき

1年間の私のガバナー補佐としての活動を振り返ると、結局は「いい人」と「いい場面」に遭遇したと思う。これもガバナー補佐になったおかげだ。弁護士となって43年、ロータリアンになって32年となるが、今までの経験が会う人ごとに魅力を感じさせ、楽しさと未知の感情を芽生えさせてくれた。そういう場所を提供してくれたロータリークラブには感謝したいし、何か自分にできることはしなければと思う。

最後に、職業を通じての社会奉仕、社会に役立つロータリーというのは私の信念になった。付け加えて言うと、自分の居場所はどこだろう？家庭か？職場か？あの世か？などと考えていたら、ロータリーというのはひょっとして、自分の居場所のひとつなんじゃないかと思った。

著者：安部光吉

経歴

1950年 11月17日生まれ
1979年 弁護士登録
1991年9月 福岡南RC入会
1993年7月～1999年6月 RI第2700地区インターアクト地区委員
2001年7月～2002年6月 福岡南RC幹事
2010年7月～2011年6月 福岡南RC幹事
2016年7月～2017年6月 福岡南RC会長
2022年7月～2023年6月 RI第2700地区第4グループガバナー補佐

住所

福岡市中央区大名2丁目4番30号 西鉄赤坂ビル7階
安部・有地法律事務所
TEL 092-761-1335 / FAX 092-761-3754
MAIL willka@crocus.ocn.ne.jp

私のガバナー補佐日記 2022年7月～2023年6月

発行 2023年11月17日

著者 安部 光彦

印刷所 アオヤギ株式会社
福岡市中央区渡辺通2丁目9番31号

